

緑生瓦版

2010.11.01
第二十九号

2010年度鳥学会に参加して

今年の鳥学会は九月十八日から二十日まで、千葉にある東邦大学で行われました。多くの素晴らしい発表がありました。そのなかで私個人としては、DNAバーコーディングに関する研究結果がとても興味深く、今後の展開に注目したい内容でした。また、業務に関連する話では、2012年を目標に日本産鳥類目録第七版が作成されています。新しい目録では、新規掲載種が百種にもなることや、分類体系の見直し、和名の変更なども検討されているようです。これにより、我々、環境アセス業界でも河川水辺の国勢調査などの鳥類リストを見直す必要が生じるかと思えます。新しい目録がでると、それを入力するのがかと思つと、ぞつとしますが、安心して下さい。新しい目録では書籍だけではなく、リス下については学名入りの電子データ(Electronic)もついてくるようです。

調査部

板谷 浩男

緑生研究所って、どんな会社…? ～ 生物多様性の巻 その2 ～

前回(第28号)は「生物多様性」とは何か?というテーマで、その概要をお話しさせていただきました。今回は企業における生物多様性への取り組みについて、どのようなことが出来るのか考えてみたいと思います。(調査部 坪山聡)

- ・事業活動と生物多様性(自然環境)との関係性の把握
- ・生物多様性への取り組みによるチャンスとリスクの把握

社内における基本方針やガイドラインなどの策定

社員ひとり一人の生物多様性(自然環境)への関心を高め、取り組みへの理解と積極的な協力を得るための仕組みが必要です。

- ・社内仕組みの構築
例) 専門部署の設置、担当の配置など
- ・情報の共有化
例) ハンドブックの作成・配布、勉強会の実施など

専門家や専門機関への相談・ヒアリングを行うことも良い方法かもしれません。

具体的な取り組みの検討

実現の可能性についても十分に考慮することが大切です。

原材料調達過程におけるトレーサビリティ制度の導入

生物調査や資源研究への協力・参加

緑の街づくり、エコロジカルネットワークの構築

社有林や敷地緑地などの利活用

自然観察会などの環境学習の企画・運営

違法伐採した木材等を購入しないことで森林破壊を抑えるなどの取り組みがあります。

郷土種や在来種を用いた植栽のほかに、地域に根ざした「里山環境」の整備なども行われています。

多くの企業が集まり生物多様性の保全に関する共同研究を行っている JBIB(企業と生物多様性イニシアティブ)などの企業ネットワークもあります。

動植物に関する基礎調査やモニタリング調査を実施することで、緑地の持つ地域特性やポテンシャルを把握することが出来ます。さらに、その結果を利活用計画に反映することで、より適切で具体的な計画を策定することが可能です。

社員の意識向上を目的としたものや、未来の担い手である子供達の教育を目的としたものなど様々な企画があります。

写真だより



ウラナミシジミ *Lampides boeticus*

夏から秋に見られる代表的な蝶のひとつで、庭先や街中の公園など、身近な場所でも目にすることが出来ます。名前のとおり翅の裏面のさざ波模様が特徴的な小型の蝶です。

コナギ *Monochoeris vaginalis*

水田などでよく見られる水草で、写真のような青紫色の小さな花を付けます。もともとは東南アジア原産で稲作とともに日本に入ってきた植物と考えられています。今では水田雑草といわれていますが、昔は茎や葉を食用にしていたそうです。



アンケートのお願い！

Q. 「緑生瓦版」のなかで取り上げてほしい内容や、ご意見、ご感想などを教えてください。

差し支えなければ、会社名、所属、氏名をお教え下さい。

会社名：

所属：

氏名：

ご協力ありがとうございました。

恐れ入りますが、アンケートの回答は、緑生研究所（坪山）宛に FAX (042-487-4334) をお願いいたします。

編集後記

お読みいただき、ありがとうございます。

第三十号は、年明け平成二十三年一月一日の発行を予定しています。

新年号では特集はお休みしますが、どこまでもまっすぐで、限りなく熱い私たちの想いをお伝えいたします。



コラム



先日、お土産に「らつきようチョコレート」というものをもらいました。チョコの中に刻んだらつきようが入っているというお菓子です。以前はらつきようがまるのまま入っていたそうです。なかなか斬新なアイデアですが、やはり同じようなことを考える人はいるもので、変わり種チョコを探してみると意外に、数多く見付かるものです。味についてはあえて触れませんが、皆さんも、ぜひ一度試されてみてはいかがですか？